

春秋彩

Shunjusai

vol.62
熊本県立大学広報誌
2025
Spring



CONTENTS

Kumamoto Semiconductor Forum (2024年11月29日開催)

学長あいさつ	2
特集 県立大から世界へ新たな学びの一步 2026年度 グローバル・スタディーズ学科が誕生	3
研究活動紹介	7
大学の動き	8
後援会だより	9
生き生き元気種	10
おすすめの一冊・人事情報	11
熊本県立大学アーカイブズ	12

春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の題詞「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に冨む」若者を彩る学園の四季を表している。

2025年春から近未来を見据えて

熊本県立大学長 堤 裕昭
Tsutsumi Hiroaki



今年も熊本にいつもの春が訪れ、いたる処で桜の花が咲き誇り、はかなくも散り行き、時が常に我々の前を過ぎ去りゆくことを伝えてくれます。この時の流れの中で、本学の新しい1年が始まります。大学は多くの先達が積み上げてきた学問を学び、その学びをもとに近未来の学問を探求し、育み、その活動の弛むことない繰り返しの中で、将来の自らの幸福の土台を作り上げ、社会の健全な発展に貢献していく場となるところです。

現在、本学を取り巻く熊本の社会では最先端の半導体産業や関連する様々な産業が急速な発展を遂げつつあり、向い来る上げ潮に乗った雰囲気にも包まれています。また、それは日常生活を支える様々な社会の基盤が安定していることの上に成り立っていることであり、このことに従事する人々の穏やかな息づかいが聞こえて来ます。それは当たり前前の日常の出来事であるかもしれませんが。

一方、その向こうから正反対の荒れた空気が流れ込んでくることも感じざるを得ません。気候変動の進行によって、いつもの季節の移り替わりには様々な変化が起きつつあり、それに伴って自然災害が頻発しています。また、世界の様々な地域から人々の争い事のニュースが飛び込んできて、日本列島を取

り巻く海にも荒い波が及びつつあります。

さあ、熊本県立大学に係わる皆さん、大学を通してこれまでに学んだこと、これから学ぶことをもって、各人の幸福の実現のみならず、熊本そして1つの地球の上の世界に住み、同じ時を過ごす人々と平和に暮らしていくために、近未来を見据えて今我々は何を考え、何をなすべきでしょうか？



県立大から世界へ 新たな学びの一步

2026年度 グローバル・スタディーズ学科が誕生

「地域に生き、世界に伸びる」という熊本県立大学のスローガンをより一層推し進めるために、2026年度から文学部英語英米文学科は、グローバル・スタディーズ学科として新たにスタートします。

新学科では、入学後の1年次から高度な英語運用能力を高めるためのカリキュラムが組まれます。同

時に、英語力により磨きをかけて実践する場として国際交流の機会や海外インターンシップなどを活用し、Global Competence(グローバル社会において、多様な価値観や文化の中で他者と協働し、より良い社会の実現に貢献する力)を身に付けた人材を育成します。

県立大から世界へ、新たな学びの一步がスタート。活躍の舞台が、地域から地球規模にまで広がります。



英語英米文学科3年

中屋敷 寧々花 さん



達成感あったオンライン留学 意見発表のコツをつかめた

夏季休暇中に実施されているフィリピンのオンライン留学。2026年度からグローバル・スタディーズ学科では1年次の必修科目となります。

英語英米文学科3年の中屋敷寧々花さんは2024年夏、このプログラムを受講し、「すごい充実感、達成感がありました」と振り返ります。

長期休暇は自分を変えるチャンス

大分県出身の中屋敷さんは、「将来は通訳の仕事に就きたい」と話します。中学生のころからバスケットを楽しんでいる中屋敷さん。男子バスケットのワールド大会で、外国人のヘッドコーチと選手の間に入って通訳をしている女性の姿を見て、「カッコイイ」と思ったからだそうです。

在学中に交換留学制度に応募して海外留学するのが目標でしたが、なかなか実現しませんでした。「長期休暇に入ると英語に触れる機会が減り、1、2年生の夏休み明けは、ゼロからのスタートに戻ってしまいました」と後悔。3年生の夏季休暇は「自分をしっかり変えたい」と決意し、県立大学が協定を結んでいるフィリピン・デラサール大学が提供するオンライン留学に参加しました。

3週間の講義は全て英語で、1日4時間。「充実感、達成感

がありました。この留学制度がなかったら、休暇中に1日4時間も勉強はしなかったと思います」

TOEFL®のスコアも大幅アップ

午前中の「ビジネス英会話」では、社会人として英語で商品のPRをしたり、就職面接に臨んで自己PRしたりする実践的な内容。「プレゼンテーションでは、理論立てて説得力を持たせる必要がありました。それに加えて、サプライズ要素もないと、相手の心をつかめません」と中屋敷さん。実際のビジネス現場で鍛えられて得たような自信が感じられます。

午後は「リーディング・コンプリヘンション(読解力)」。外国の本の一節を読んで、自分が理解したことや考えをみんなで共有して思考力を深めるという授業でした。「意見を発表するためには、主張・根拠・結論をきちんと組み立てることが大事だと学びました」と中屋敷さん。この留学体験の後、TOEFL®のスコアが24点もアップしたそうです。

「オンライン留学の定員は25人だったのに、参加したのは私たち数人。費用は安いし、後援会の補助もあるので、参加しないのもったいない」と中屋敷さん。「県立大学は教材が豊富で先生方によるサポートが手厚いので、見逃さないでしっかり利用してほしい」とアドバイスします。

英語英米文学科3年

谷岡 奈央 さん



コンフォートゾーンを抜け出し ウガンダでの海外研修に挑戦

2026年度にスタートするグローバル・スタディーズ学科では、「活躍の舞台を、地域から世界へ!」のスローガンを掲げています。国際交流や海外研修・留学、海外インターンシップなどの実践の場が用意されています。

英語英米文学科3年の谷岡奈央さんは、人前で話すのは苦手だったそうですが、「周りに挑戦している友達が多くて、私も一皮むけるチャンス」と、英語でのプレゼンコンテストに出場しました。次のステップとして選んだのが、東アフリカのウガンダでの海外研修。2023年3月から9カ月間、あしなが育英会の海外留学研修制度に応募しました。

人と比べるのではなく、自分の目標を持つ

ウガンダを選んだ理由は、比較的治安がいいこと、あしなが育英会のNGO組織があり、教育支援の活動ができること。谷岡さんは首都カンパラ近郊のベッドタウンで、現地の子どもたちへの公文式学習指導に携わりました。

「子どもたちの家に行くこと、電気や水道がないのは当たり前。私は『貧困と教育』の問題に関心があったので、それを常に頭に置きながら活動しました」。子どもたちは負けず嫌いで、友達ともめることも。「人と比べて落ち込む子もいて、一人ひとりに向き合って声を掛けることが大事だと感じました」

と谷岡さん。子どもたちには、過去の自分と比べて「過去の自分を越える」ための努力、自分の目標を立てて「何をすればいいのか」を考えることを話しかけたそうです。

初めての海外体験先にアフリカを選んだ谷岡さん。「現地に着いた時の熱風に感動しました。楽しかった」と振り返ります。「自信がついたし、前向きになった。生き生きしている、顔つきが変わったと友達から言われます。自分の頭で考え、動いたから得られたもの」と笑顔がこぼれます。

やりたい事は口に出す「有言実行」

海外への挑戦へと谷岡さんの背中を押したのは、もやいずとグローバル育成プログラムでの講演。「コンフォートゾーンを抜け出す」という講師の言葉に、「快適な環境から飛び出すことで、私も成長できる」と、1年間休学して留学研修する決意を固めたそうです。

「自分のやりたい事は、口に出した方がいい。話した人が応援してくれたり、応援する人を集めてくれたりするから。もう一つは、言霊(ことだま)というか、言葉にすることで自己理解が深まるし、言ったことに責任も出てくるので、必ず実現できる気がします」。谷岡さんの「有言実行」が楽しみです。

文学部英語英米文学科

原 紘子 教授

2026年度からスタートするグローバル・スタディーズ学科。講義内容がどう変わるのか、何を狙っているのかなどを、アメリカとカナダで長年学び、異文化コミュニケーションなどの科目を担当している原紘子・英語英米文学科教授に聞いた。



多様性の中で協働し、貢献できる人材に

英語での講義が約7割に

一なぜ今、グローバル・スタディーズ学科にするのですか？

グローバル化が加速化し、日本に来る外国人労働者も増えてきました。さまざまな文化、バックグラウンドを持つ人々と一緒に働いていくためには、高い英語運用能力と、Global Competence(グローバル・コンピテンス)の二つを身に付けていなくてはなりません。

一具体的にどんな講義内容に変わるのですか？

英語で行う専門科目の授業が、現在の約5割から約7割に増えます。

高い英語運用能力を育成するために「English for Global Communication」という新しい科目を提供し、英語で様々な活動を行うための基礎作りもします。就職活動やビジネス現場で重視されるTOEIC®を1年次から受けてもらい、目標スコアを設定します。アプリを使ったeラーニングも活用していきます。

オンライン留学が必修

一「グローバル・コンピテンス」という言葉を初めて聞く人も多いかと思います。

グローバル社会で、多様な価値観や文化の中で他者と協

働し、より良い社会の実現に貢献する力のことです。

県立大学では、もやいすと活動が入学時から全学生に必須で、地域防災をテーマに学びと実践が行われます。これに加えて、1年次はオンライン留学が必修になります。夏季休暇中、フィリピンの大学の授業でみっちり英語を勉強し、異文化体験してもらいます。

2年次からは「もやいすとグローバル育成プログラム」で、シンガポールやオーストラリアなどでの海外インターンシップがあり、実践力を養います。学内でも留学生らとの交流や国際協力などを通じて、協働する力を磨きます。

高度な英語運用能力を

一文学部の学科ですので、英米文学のイメージが強いのですが。

もちろん文学や英語学の勉強もできます。ただ、高校を訪問してヒアリングすると、今の高校生のニーズに応えるには、将来役立つ知識や能力、高度な英語運用能力とグローバル・コンピテンスを柱とする必要があると思います。

県立大学に赴任して7年目ですが、真面目な学生が多く、留学生と英語でディスカッションを楽しんでいます。これからも、いろんな国の人たちと関われるようにしていかなければなりません。卒業後は東京や海外で働く人、地元で活躍する人もいます。学生たちがいろんな選択肢から選べるようにしていきたいと思っています。

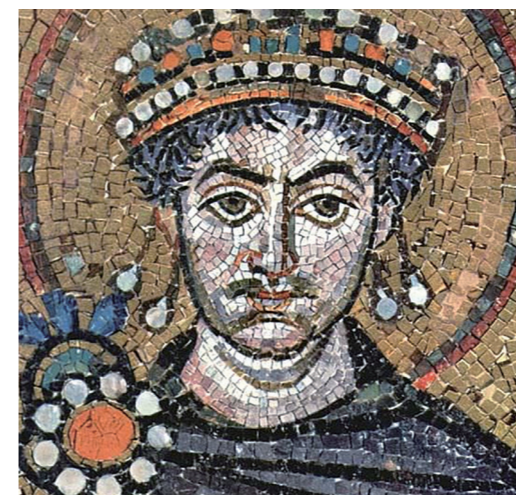
契約不適合責任と瑕疵担保責任

私は民法を専攻しています。民法は、私たちの日常生活関係と密接に関わっている法律であり、物の売り買いや貸し借りといった取引関係、交通事故の被害者と加害者の関係、親子や夫婦の関係などのあらゆる私的な関係を規律しています。民法の研究者は、様々な関係を規律している民法の中の特定の領域を専門として研究活動を行っています。

古代ローマ由来の古い制度

私は契約を専門としており、とりわけ、売主の契約不適合責任という制度の研究を行っています。契約不適合責任とは、例えば、売主が買主に引き渡した自動車のエアコンが壊れていたような場合に売主が負担する責任です。この場合、買主は、エアコンの修理や売買代金の減額などを売主に求めることができます。

このような契約不適合責任は、2020年に民法の契約に関するルールが大きく改正されるまでは、瑕疵(かし)担保責任と呼ばれていました。瑕疵とはキズのことを意味しますが、瑕疵担保責任は古代ローマに由来する非常に長い歴史を持つ制度です。驚くべきことに、写本などの資料を通じて、私たちも当時の法文の内容を知ることができます。古代ローマの古い時代において



6世紀に法典編纂事業を行ったユスティニアヌス帝



在外研究を行ったボン大学(ドイツ)の講堂

は、奴隷や家畜の売主が、市場の秩序を維持する権限を持っていた按察官の告示により、病気や逃亡癖といった一定の瑕疵を買主に告げる義務を負わされていました。瑕疵担保責任は、この義務から展開したものとされています。

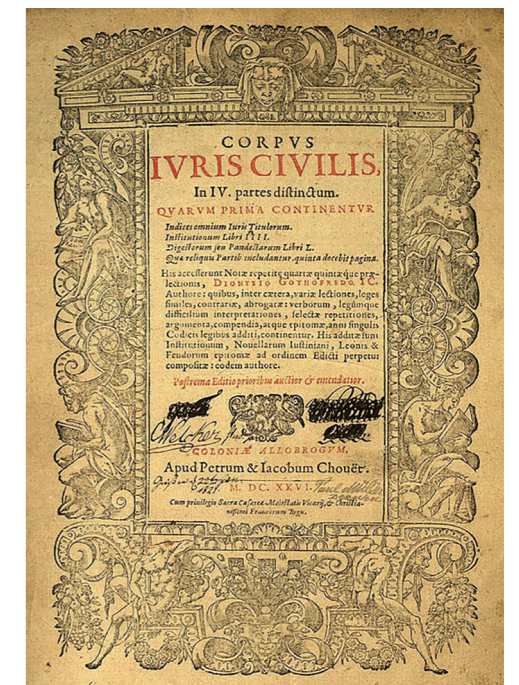
売買契約の内容と目的物の品質

さて、売主に契約不適合責任が生じるのはなぜでしょうか。契約に適合する品質を備えた物を引き渡すことが契約の内容になっているからというのが現在の有力な考え方です。では、契約の内容はどのようにして決まるのでしょうか。例えば、コンビニで購入した弁当が腐ったものではないと考えるのは当然としても、「この弁当は腐っていない」ということを目の前にいる店員と約束して購入しているのでしょうか。私が興味を持っているのは、売買目的物のある品質が契約の内容になっているといえるのはどのような場合かという問題であり、(日本法に大きな影響を与え続けている)ドイツ法との比較や歴史的沿革といった視点からの検討を続けています。これまでのところ、売買契約の両当事者の給付間の等価性が重要な役割を果たし得るのではないかと考えています。

プロフィール

九州大学大学院法学府博士後期課程単位取得満期退学
博士(法学)
2019年より本学勤務

准教授 田畑 嘉洋
総合管理学部公共専攻



ユスティニアヌス帝の法典をまとめた『ローマ法大全』の表紙

JAMSS主催「SPACE IDEA CONTEST」で野口聡一賞等を受賞！

有人宇宙システム株式会社（JAMSS）が開催した、ひとと宇宙のこれからをデザインするアイデアコンテスト「SPACE IDEA CONTEST」において、総合管理学部・飯村研究室の白石朱音さんが参加したグループが「野口聡一賞」を受賞しました。また、環境共生学部食健康環境学専攻の岡部真生さんと総合管理学部・飯村研究室の蛇島はるなさんが参加したグループは審査員賞&学生投票賞を受賞しました。

本コンテストは全国の大学生・大学院生を対象とするもので、宇宙飛行士 野口 聡一氏が特別審査員を務めまし

た。東京で行われた対面イベントには書類選考を通過した54名が参加し、本学からは学部生5名が参加しました。

【白石朱音さんのコメント】

本コンテストを通じて、他の参加者の多様な視点やアイデアに触れ、自分では思いつかなかった発想や考え方を学ぶことができました。また、日本全国に友人もでき、楽しくて充実した時間を過ごせました。受賞できるとは思っていませんでしたので、驚くと同時に、このような評価をいただけて嬉しく思います。今後もこの経験を活かし、さらに成長していきたいです。



右から2人目：白石さん ©合同会社未来圏/JAMSS



右から蛇島さん、岡部さん ©JAMSS

<主催者情報>有人宇宙システム株式会社（JAMSS）
有人宇宙システム株式会社は国際宇宙ステーション（ISS）/日本実験棟「きぼう」を運用・利用・訓練・安全の観点で地上から見守ってきました。宇宙空間は今や新たな経済圏として民間企業が利用する場に変化しつつあります。JAMSSもまた「民間宇宙ステーション」時代の到来を見据

え、「きぼう」の利用、衛星の開発・運用支援や衛星データの活用をはじめとした宇宙利用に力を入れています。さらには有人宇宙開発の最前線で培った技術力を活かし、地球と宇宙をつなぐ架け橋として宇宙探査領域の取り組みにも広く貢献していきます。

連続講座「源氏物語」を開催しました

優れた古典文学作品に触れていただくため、『源氏物語』をテーマとした3回連続の講座を実施しました。

第1回は、本学文学部の岩田准教授による「源氏物語への歩み」と鈴木教授による「源氏物語の行方」という構成で、『源氏物語』の読みどころや後世への影響といった基本知識について講義を行いました。

第2回は、高田祐彦氏（青山学院大学教授）をお招きし、「源氏物語—歴史を越えた虚構—」と題し、史実と『源氏物語』との関係性を鮮やかに説かれ、『源氏物語』が持つリアリズムについて、わかりやすく丁寧に講義いただきました。

第3回は、高野晴代氏（日本女子大学名誉教授）をお招きしました。高野氏は、大河ドラマ『光る君へ』の平安和歌・文学考証を担当されており、ドラマの最終回前日に行われた今回の講義では、これまでのドラマ制作秘話を交えつつ、贈

答歌の仕組みや『源氏物語』におけるその機能についてお話しくださいました。

本講座では、『源氏物語』と古典文学の研究者が、各回、2時間にわたり、それぞれのテーマに沿った内容をお話くださいました。受講者のみなさまには、『源氏物語』のディープな魅力をご堪能いただけたものと思います。アンケートなどでいただいたご意見を参考に、今後も、文学の魅力幅広く発信する機会を設けたいと思います。



【第3回 高野晴代氏（日本女子大学名誉教授）
『源氏物語』の和歌—贈答歌に託されたもの—2024/12/14 開催



【連続講座募集チラシ】

インターナショナルフェスティバル in 白亜祭を実施しました！

2024年11月9日、「インターナショナルフェスティバル in 白亜祭」が開催されました。

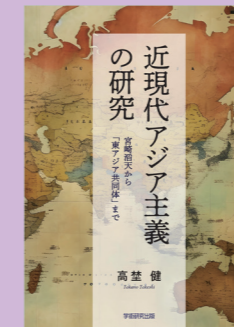
留学生の出身国である、韓国、中国、インドネシア、アフガニスタン、ガーナ、アメリカ合衆国の6か国のブースに分かれて、留学生と日本人学生が共同で文化紹介を行いました。各国の伝統舞踊や民族衣装、遊びの紹介、ポスターの展示、食文化の紹介やお菓子のプレゼントなどを行い、約300名の来場者と交流しました。

来場者からは、「普段は接する機会が少ない外国の方と会話することができて楽しかった」「ゲームを交えての交流は楽しく、外国の文化と触れ合えた」等のお声をいただきました。

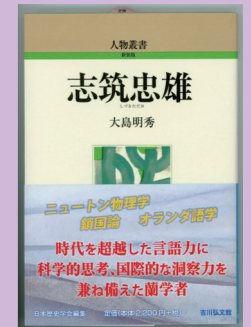


書籍刊行のお知らせ

『近現代アジア主義の研究 宮崎滔天から「東アジア共同体」まで』
(2025年1月、学術研究出版)
著者：高埜健（熊本県立大学総合管理学部公共専攻 教授）



『人物叢書 志筑忠雄』
(2024年12月、吉川弘文館)
著者：大島明秀（熊本県立大学文学部日本語日本文学科 教授）



黒田理事長、堤学長との座談会

2024年10月21日（月）～23日（水）3日間にわたり2023年度に助成した9グループの共同自主研究成果発表会を学生食堂で開催しました。審査員に黒田理事長、堤学長、鈴木副学長を迎え、また、昼休みに開催したこともあって例年より多くの学生、先生に研究成果を知ってもらうことが出来ました。

最終日の発表終了後、代表者等22名との昼食を兼ねた座談会を行いました。昼食は、コラボ企画として同日開催された「食育の日」の特別メニュー『くま川ふっこう弁当』をいただきました。黒田理事長から「研究とは、知りたい・解らないから始まり、解るになる喜びを得られます。私は皆さんより多くのことを研究し知っていますので、どんどん聞いてください。今回は皆さんの研究の話しを聞くことが出来うれしく思っています」とのお言葉があり、また、参加した学生からは「いろんな話しを聞くことができ身近に感じました。」との声がありました。

今後もこのような企画を支援していきます。



※新入生へは、本学合格通知の際に、後援会の説明及び入会・会費納入のお願いをしております。まだ未入会の方は、充実した学生生活を送るためにも後援会事業をご理解いただき、是非ご加入ください。年次途中であっても随時入会を受け付けております。

後援会だより

《就職対策事業》

- 就職対策講座（公務員試験対策）の助成、資格取得及び講座受講等助成 他
- 就職活動（インターンシップ等）経費（交通費及び宿泊費）の一部助成、各学部・学科・専攻で行うキャリア形成支援事業助成、在学生就職アドバイザー配置支援、TOEIC®IP学内試験への実施支援、就職・進学用写真代助成、保護者用就職ガイドブック作成配付 他

《学生活動支援事業》

- サークル活動費助成、白亜祭・PUKリンピック開催経費助成、インカレ出場助成、全国大会等出場助成 他
- キャンパス活動支援、学生用カラーコピー機の設置、コピーカード配布・販売、食育支援（野菜スープ提供）、予防接種費用助成 他
- 学生のリクエストに応じ図書を購入し図書館へ配置 他

《国際交流推進事業》

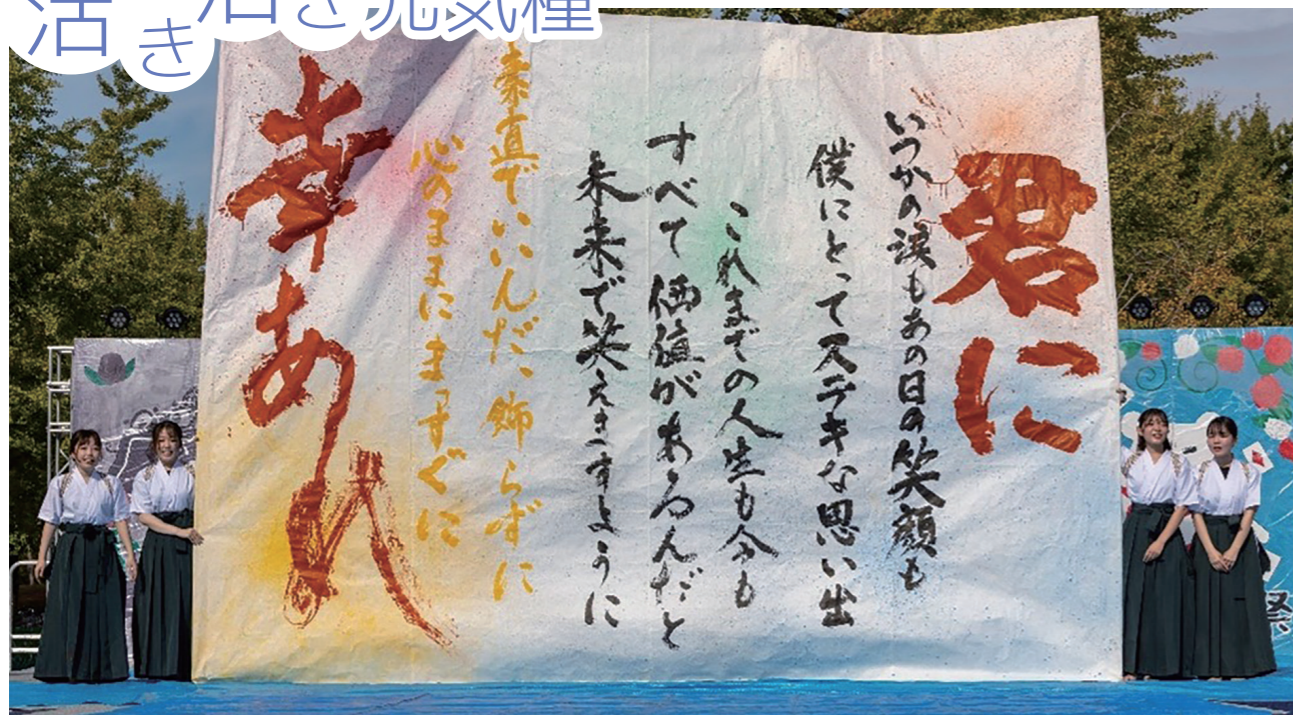
- 海外留学助成、留学対策講座助成、留学生による学生等向け語学講座開講支援、国際交流事業助成 他

《教育研究推進事業・その他》

- 共同自主研究への助成、現地学習バス借上助成、インターゼミナール大会等への参加助成 他
- 卒業式のガウン貸与、記念品贈呈 他

活き活き元気種

このコーナーでは地域で活躍する熊本県立大生の声をお届けします。



白亜祭中庭ステージでの書道パフォーマンス

書道部

代表者 おやま ももか 小山 桃加(総合管理学部総合管理学科 3年)

書をみんなに伝えたい!

私たち書道部は、現在、総勢7名で活動しています。活動日は特に決めておらず、「好きなときに来て好きなときに書く」をテーマに自由に楽しく活動しています。「書道部って何してるんだろ...?習字?」などとよく言われますが、習字と書道は全く違うんです!

習字と書道で大きく違うのは『個性』だと思います。習字は、バランスよく整った字を書くことに特化したもので、書き順やとめ・はね・はらいを意識した「誰が見ても美しいと思う文字」を書くものです。これに対して書道は、象形文字や石・木・竹・金属等に掘られた文字、百人一首でよく見る仮名文字など、古人の優れた書を素材に、自由に筆を運ばせて芸術的に表現するものです。習字とは違い、書道は『個性』で書くのです!

そんな『個性』を大事に活動している私たちのメインの活動は大きく2つあります。まずは、作品の展覧です。私たちは年に数回、全国各地で行われている様々な展覧会や大会に作品を出品しています。指導者がいないため部員同士で批評し合い、和気あいあいと作品制作に励んでいます。出品も全て自分たちで行うので提出時期は忙しくなりますが、少ない部員で協力して頑張っています。実は、とある大会で部員全員が入賞したこともあるんです!

次に白亜祭での書道パフォーマンスです。これは書道部が学内で目立つ唯一の場なので、書道部の活動と言えばこれ!と知っている方も多いかと思います。私たちも毎年とても楽しみにしている活動です。令和6年度の白亜祭は60周年ということもあり、例年よりも華やかなパフォーマンスになるよう、張りきって構成を考え何度も練習しました。当日はハプニングがありながらも楽し

くパフォーマンスをすることができ、お客さんや友人から「すごかったよ!感動した!」という言葉をいただきました。普段書道に触れあうことのない人たちにも書道の素晴らしさを伝えられた良い機会となり、達成感で胸がいっぱいになりました。

最近ありがたいことに地域のイベントに声をかけていただく機会も増え、活動も充実してきました。今後も皆さんが書に触れ、楽しんでもらうきっかけ作りができるよう、部員一同精進していきます。興味のある方はぜひ一緒に活動してみませんか。お待ちしております!



大成功!作品と一緒に



地域イベントでの活動(人吉市)

お一冊

藻類30億年の自然史:藻類からみる生物進化・地球・環境 第2版
著者:井上勲

出版社:東海大学出版会 出版年:2007年11月
ISBN-13:978-4486017776



環境共生学部
環境共生学科
環境資源学専攻
教授
一宮睦雄

「藻」は水の中にすむ植物の総称で、ほとんどは顕微鏡でなければ見ることができない小さな生き物です。理科の授業でミドリムシやミカヅキモなどの生き物を聞いたことがあると思います。そんな小さな生き物が30億年をかけて現在の地球環境と生物多様性を作り上げてきました。地球温暖化などの環境問題を解決する鍵を握っているのは、間違いなくこの小さな「藻」です。

本書は様々な藻類の紹介から始まって、面白い生き様に興味をそそられ、藻類が鉄と文明をもたらし、石油となったなど、身近な話題からさらに読み進めていくことができます。しかし、光合成の進化や真核生物の起源をより深く理解するためには、分子生物学や地球科学など様々な知識がないと一読ではとても理解できません。「とっつき易く極め難い」本で、是非チャレンジして欲しいと思います。読者に最後まで読み進めたいと思わせる文章構成も見事です。

少し前に出版された本ですが、藻類学の教科書として広く利用されています。藻類だけでなく、生物の進化、地球環境と生物の関わりを勉強したい学生には必読書です。

人事情報

●採用 (令和7年4月1日付)

【文学部】
准教授 リカード ジョシュア

【環境共生学部】
准教授 南部 恭広
講師 栗原 広佑

【総合管理学部】
准教授 本田 藍

●昇任 (令和7年4月1日付)

【文学部】
教授 原 紘子
准教授 萱嶋 崇

【環境共生学部】
教授 坂本 達昭

【総合管理学部】
教授 西森 利樹
教授 本田 圭市郎

【共通教育センター】
教授 武上 富美

●退職 (令和7年3月31日付)

【文学部】
教授 半藤 英明
教授 吉井 誠
准教授 秋葉 多佳子

【総合管理学部】
教授 黄 在南
教授 丸山 泰

【環境共生学部】
教授 北原 昭男
教授 田中 昭雄

●令和7年度 学長等について

【学長】
堤 裕昭

【副学長】
鈴木 元

【文学部長】
村尾 治彦

【環境共生学部長】
白土 英樹

【総合管理学部長】
宮園 博光

【共通教育センター長】
山田 俊

【文学研究科長】
米谷 隆史

【環境共生学研究科長】
柴田 祐

【アドミニストレーション研究科長】
澤田 道夫

【図書館長】
江崎 一朗

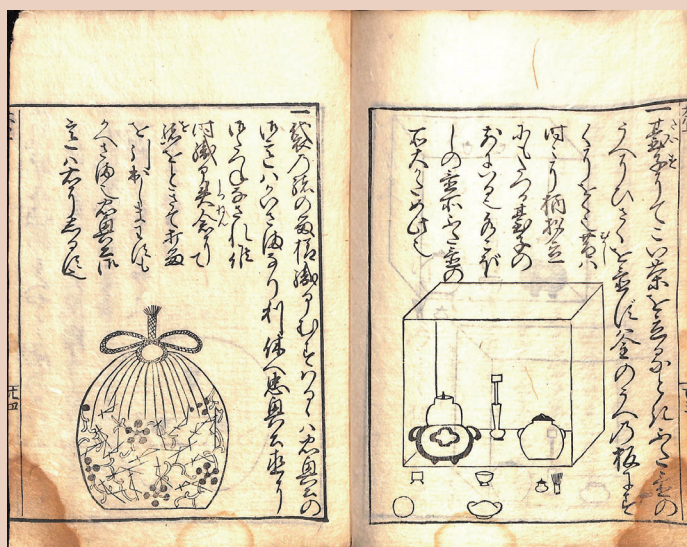
【地域・研究連携センター長】
石橋 康弘

【デジタルイノベーション推進センター長】
飯村 伊智郎

【国際教育交流センター長】
モロー ジェフリー スチュワート

【キャリアセンター長】
友寄 博子

【保健センター長】
下田 誠也



細川茶湯之書 寛文八年刊 合一冊

外題は「細川三斎茶湯之書」。肥後熊本藩主家たる細川家の祖、細川幽斎の嫡男たる忠興による茶の湯作法の書。巻末に「寛永十八年極月吉日写之」の元奥書が刻されており、同年写本をもとに寛文八年に上梓したものの。元来は五分冊から成るが、現状では各表紙も含め合冊して綴じ合わせ、一冊に改装してある。

三斎を号した忠興は、「利休七人衆」(『茶道四書伝書』利休伝)あるいは、「利休七哲」の一人と数えられるほど、戦国時代に様式化された「茶の湯」に入れあげていた。そんな忠興には、本書以外にもいくつか茶の湯作法の書が写本で伝わっている。「先年、利休、茶之湯の師と

なり、弟子数千人余これありといへ共、上手と成(る)弟子は五人十人にしかず」(本書上巻)という状況の中、上手の旧規先例を伝えるものが少ないことを、制作動機としたもの。

松屋久重『茶道四祖伝書』の「利休伝」に、茶の湯は、人と違えてするのが利休の趣向であったと伝えるが、「細川三斎は(利休と)少もちがわ」なかったがため、名を得ることができなかったと評する。その評価はともあれ、上手の例に倣うことこそ、茶の湯の上達の道とした三斎の面目を伝える伝書である。

解説：文学部日本語日本文学科 教授 鈴木 元

「春秋彩」へのご意見・ご感想をお待ちしています。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。
 いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。
 〒 862-8502 (住所記載不要)
 熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当
 FAX 096-384-6765 E-mail kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

発行：熊本県立大学

〒 862-8502 熊本市東区月出3丁目1番100号
 TEL 096 (383) 2929 (代)
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>